

「公益産業研究調査会」は、今日の流動する世界情勢のなかで、海外並びに国内の政治・経済・社会の現状と動向を研究、把握し、日本経済及び会員企業の発展に寄与することを目的に設立されました。

設立 昭和三十八年四月（九電力会社、電源開発を会員に発足、今日に至る）
会員 約二百社

活動内容 毎月「公研セミナー」を開催し、会誌「公研」を発行しています。

月刊「公研」の主な内容

「公研セミナー」を全文収録します。また、その時々のテーマに斬り込む「対話」、各界著名人のインタビュー「私の生き方」が、本誌の三大企画です。このほか、各界一流執筆者による随筆、内外の政治・経済レポートなど、さまざまな情報を満載しています。

配布先 会員各社、国会議員、官公庁、国公私立大学教授など学識経験者、ジャーナリスト、米国・ロシア・中国など在日各国大使館、米国会図書館等。

会員

大丸興物産	日本生命	第一生命	みずほ信託銀行	J E R A	電源開発	北陸電力	北海道電力	四国電力	中國電力	東北電力	中部電力	関西電力	東京電力ホールディングス	
東芝プラントシステム	オルガノ	トヨカネツ	日揮	I H I	三菱重工業	千代田化工建設	東邦電気工業	JFEエンジニアリング	JFEスチール	日本製鉄	栗本鐵工所	トヨタ自動車	東海旅客鉄道	大和リース
華陽電機工業所	金邦電気	三英社製作所	古河電氣工業	国際社会経済研究所	昭和電機	ダイヘン	日新電機	横河ソリューションサービス	横河ソリューションサービス	日立製作所	富士電機	日立製作所	カナデビア	富田電機製作所
安藤・間	竹中工務店	清水建設	住友電氣工業	鹿島建設	大成建設	竹村電氣工事	大高電設	光陽エンジニアリング	光陽エンジニアリング	大高電設	大洋建設	五洋建設	五洋建設	東邦電機
東洋建設	大豊建設	みらい建設工業	日本電開	日本国土開発	日本国土開発	日本国土開発	日本国土開発	日本国土開発	日本国土開発	日本国土開発	日本国土開発	日本国土開発	日本国土開発	日本国土開発

専務理事
監理事
理事
理事
理事
理事
理事
理事
理事
理事
理事
會長

堀森倉平
杉内田田
籠下田田
義一
秀人
瓦節人
拓人
三
謙和
伸爾
瓦人
秀人
人

(東京電力ホールディングス 参与)
(関西電力 執行役常務)
(中部電力 副社長執行役員)
(東北電力 常務執行役員)
(中国電力 執行役員)
(四国電力 取締役常務執行役員)
(北海道電力 取締役常務執行役員)
(北陸電力 代表取締役副社長執行役員)
(電源開発 取締役副社長執行役員)
(海外電力調査会 会長)

〔組織〕

公研セミナー
総目次

年	月	題	著者
1964年	1月	大熊良雄	「物価規制について」
1月	2月	宮下正平	「物価と資金」
1月	3月	澁田実	「日本経済の成長力」
1月	4月	下村治	「外資流入の姿勢」
1月	5月	鈴木秀雄	「転型期の核心を掴む」
1月	6月	篠原三代平	「増中期手直しの問題点」
1月	7月	向坂正男	「開放体制下の景気循環」
1月	8月	中村孝士	「長期経済政策への提唱」
1月	9月	木村禧八郎	「国際流動性と日本経済」
1月	10月	神野正雄	「世界景気の動向」
1月	11月	大来佐武郎	「地域開発の方向性」
1月	12月	磯村英一	「金融正常化の諸問題点」
1月	1月	庄司竜一郎	「日本の産業集中の実態と方向」
1月	2月	竹中喜満太	「坂本二郎・中野拙三・経済成長と人間尊重」
1月	3月	伊藤長生	「利潤について」
1月	4月	三木邦男	「新経済白書」と景気判断
1月	5月	堀越滋	「今後の産業政策と日本経済」
1月	6月	佐橋治雄	「経営について」
1月	7月	前川憲一	「不況の中の財政の方向」
1月	8月	金森久雄	「新経済白書」と景気判断
1月	9月	須藤三	「財界は公債をどう考える」
1月	10月	宍戸駿太郎	「不況後の日本経済の新ビジョン」
1月	11月	湊守篤	「不況後の企業体質をこう考える」
1月	12月	木内信胤	「不安に答える」
1月	1月	大河内一男	「景気短期見通し」
2月	2月	小坂徳三郎	「マンパワーズと日本経済への要望」
2月	3月	両角良彦	「経済を持つて歩こう」
4月	3月	井深長	「今後の産業体制と政府企業間の矛盾」
5月	3月	榎浦英夫	「国際金利の上昇と日本への影響」
6月	3月	竹内一郎	「最近の設備投資の動向」
6月	4月	井深長	「企業における研究開発と経済成長」

月	見	響	の	向	の	と	く	代
9月	佐川	1971年	12月	1月	8月	9月	10月	11月
8月	柏木	1971年	1月	2月	8月	9月	10月	11月
7月	滋	3月	3月	3月	7月	8月	9月	10月
6月	内野	4月	4月	4月	6月	7月	8月	9月
5月	相沢英之・吉田達雄	5月	5月	5月	5月	6月	7月	8月
4月	柏木公秀・津和義昌	6月	6月	6月	6月	6月	6月	6月
3月	佐野喜一匡	5月	5月	5月	5月	5月	5月	5月
2月	飯野	4月	4月	4月	4月	4月	4月	4月
1月	林	5月	5月	5月	5月	5月	5月	5月

1988年4月	赤羽 隆夫	六十三年の景気見通し — シヤ	7月	G・S・フクシマ
5月	高橋 進	—ロキアン景気探偵はこうみる 建設行政の諸問題	8月	長瀬 要石
6月	黒田眞／J・C・アヘグレン	—市場参入問題を含めて 日米通商摩擦の行方	9月	松永龜三郎
7月	星野 進保	経済運営五ヵ年計画のポイント	10月	松浦晃一郎
8月	牛尾 治朗	国際化時代の企業経営	11月	佐和隆光
9月	岡崎 久彦	日米関係の再構築と外交課題	12月	青井舒一
10月	鎌田 吉郎	—これからエネルギー政策と原子力	1月	富原俊二
11月	J・ホワイトヘッド	—これから日欧関係を考える 二十一世紀へ向けての企業活性化と人材活用	2月	涌井 洋治
12月	黒沢 洋	—EC統合問題を含めて 内外金融情勢と景気見通し	3月	久米 豊
1989年1月	篠沢 嘉恭	89年のアメリカ経済と日米関係 平成元年度予算のポイント	4月	牟田口義郎・鴨彌彦
2月	佐藤 恭助	—紛争後の中東問題と世界政治の新構図	5月	三谷 浩
3月	進藤 貞和	—地球環境問題と日本の対応	6月	島田 晴雄
4月	杉山 弘	—ソ連・東欧の経済再建と改革のシナリオ—ペレストロイカの行方	7月	橋口 収
5月	J・キャッシュマン	—中東・東欧・アフリカ経済とインフレ懸念	8月	棚橋 祐治
6月	亀井 正夫	—中東情勢とエネルギー政策	9月	千野 忠男
7月	A・ファンアフト	—東・東危機と国際石油情勢	10月	田中正努
8月	水谷研治・吉田春樹	—景気は転換点を迎えた?	11月	亀井正夫
9月	内海 孝	平成三年度予算のポイント	12月	小林陽太郎
10月	田川誠一・菅直人	—平成三年度予算のポイント	1月	稻葉興作
11月	寺村 信行	—政策・経済・社会改革の指針	2月	飯田康太郎
12月	山本 雅司	—欧州への企業進出と投資摩擦	3月	5月
1990年1月	佐波 正一	—政治・経済・社会改革の指針	6月	島田晴雄
2月	武藤 敏郎	—日米関係の再構築と外交課題	7月	7月
3月	武富 將	—89年のアメリカ経済と日米関係	8月	8月
4月	行天 豊雄	—平成元年度予算のポイント	9月	9月
5月	西澤 潤一	—二十一世紀へ向けての企業活性化と人材活用	10月	10月
6月	L・A・チヨーラ	—内外金融情勢と通貨	11月	11月
7月	細川 恒	—内外金融情勢と通貨	12月	12月
8月	T・F・ジョルダン	—95年の世界経済と金融・通貨	1月	1月
9月	加藤 紘一	—95年の世界経済と金融・通貨	2月	2月
10月	船田 元	—95年の世界経済と金融・通貨	3月	3月
11月	藤井 治芳	—95年の世界経済と金融・通貨	4月	4月
12月	児玉 幸治	—95年の世界経済と金融・通貨	5月	5月
1991年1月	平松 幸彦	—95年の世界経済と金融・通貨	6月	6月
2月	牟田口義郎・鴨彌彦	—景気は転換点を迎えた?	7月	7月
3月	佐藤 経明	平成三年度予算のポイント	8月	8月
4月	安原 正	—ソ連・東欧の経済再建と改革のシナリオ—ペレストロイカの行方	9月	9月
5月	鹿取 泰衛	—中東・東欧・アフリカ経済とインフレ懸念	10月	10月
6月	大須 敏生	—中東情勢とエネルギー政策	11月	11月
7月	G・クラーク	—91年の経済展望	12月	12月
8月	牟田口義郎・鴨彌彦	—景気は転換点を迎えた?	1月	1月
9月	佐藤 経明	平成三年度予算のポイント	2月	2月
10月	安原 正	—ソ連・東欧の経済再建と改革のシナリオ—ペレストロイカの行方	3月	3月
11月	牟田口義郎・鴨彌彦	—中東・東欧・アフリカ経済とインフレ懸念	4月	4月
12月	牟田口義郎・鴨彌彦	—91年の経済展望	5月	5月
1992年1月	勝村 坦郎	—クーリントン政権下の日米関係	6月	6月
2月	猪口 孝一	平成五年度予算のポイント	7月	7月
3月	富金原俊二	—平成五年度予算のポイント	8月	8月
4月	鹿取 泰衛	—平成五年度予算のポイント	9月	9月
5月	牟田口義郎・鴨彌彦	—平成五年度予算のポイント	10月	10月
6月	牟田口義郎・鴨彌彦	—平成五年度予算のポイント	11月	11月
7月	牟田口義郎・鴨彌彦	—平成五年度予算のポイント	12月	12月
8月	牟田口義郎・鴨彌彦	—平成五年度予算のポイント	1月	1月
9月	牟田口義郎・鴨彌彦	—平成五年度予算のポイント	2月	2月
10月	牟田口義郎・鴨彌彦	—平成五年度予算のポイント	3月	3月
11月	牟田口義郎・鴨彌彦	—平成五年度予算のポイント	4月	4月
12月	牟田口義郎・鴨彌彦	—平成五年度予算のポイント	5月	5月
1993年1月	佐和隆光	平成五年度予算のポイント	6月	6月
2月	青井舒一	平成五年度予算のポイント	7月	7月
3月	富原俊二	平成五年度予算のポイント	8月	8月
4月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成五年度予算のポイント	9月	9月
5月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成五年度予算のポイント	10月	10月
6月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成五年度予算のポイント	11月	11月
7月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成五年度予算のポイント	12月	12月
8月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成五年度予算のポイント	1月	1月
9月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成五年度予算のポイント	2月	2月
10月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成五年度予算のポイント	3月	3月
11月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成五年度予算のポイント	4月	4月
12月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成五年度予算のポイント	5月	5月
1994年1月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	6月	6月
2月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	7月	7月
3月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	8月	8月
4月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	9月	9月
5月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	10月	10月
6月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	11月	11月
7月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	12月	12月
8月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	1月	1月
9月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	2月	2月
10月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	3月	3月
11月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	4月	4月
12月	牟田口義郎・鴨彌彦	平成六年年度予算のポイント	5月	5月
1995年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	6月	稻葉興作
2月	武藤敏郎	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	7月	牟田口義郎・鴨彌彦
3月	武富將	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	8月	牟田口義郎・鴨彌彦
4月	行天豊雄	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	9月	牟田口義郎・鴨彌彦
5月	佐波正一	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	10月	牟田口義郎・鴨彌彦
6月	L・A・チヨーラ	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	11月	牟田口義郎・鴨彌彦
7月	細川恒	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	12月	牟田口義郎・鴨彌彦
8月	T・F・ジョルダン	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	1月	牟田口義郎・鴨彌彦
9月	加藤紘一	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	2月	牟田口義郎・鴨彌彦
10月	船田元	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	3月	牟田口義郎・鴨彌彦
11月	藤井治芳	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	4月	牟田口義郎・鴨彌彦
12月	児玉幸治	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	5月	牟田口義郎・鴨彌彦
1996年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	6月	稻葉興作
2月	武藤敏郎	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	7月	牟田口義郎・鴨彌彦
3月	武富將	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	8月	牟田口義郎・鴨彌彦
4月	行天豊雄	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	9月	牟田口義郎・鴨彌彦
5月	佐波正一	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	10月	牟田口義郎・鴨彌彦
6月	L・A・チヨーラ	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	11月	牟田口義郎・鴨彌彦
7月	細川恒	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	12月	牟田口義郎・鴨彌彦
8月	T・F・ジョルダン	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	1月	牟田口義郎・鴨彌彦
9月	加藤紘一	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	2月	牟田口義郎・鴨彌彦
10月	船田元	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	3月	牟田口義郎・鴨彌彦
11月	藤井治芳	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	4月	牟田口義郎・鴨彌彦
12月	児玉幸治	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	5月	牟田口義郎・鴨彌彦
1997年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	6月	稻葉興作
2月	武藤敏郎	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	7月	牟田口義郎・鴨彌彦
3月	武富將	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	8月	牟田口義郎・鴨彌彦
4月	行天豊雄	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	9月	牟田口義郎・鴨彌彦
5月	佐波正一	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	10月	牟田口義郎・鴨彌彦
6月	L・A・チヨーラ	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	11月	牟田口義郎・鴨彌彦
7月	細川恒	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	12月	牟田口義郎・鴨彌彦
8月	T・F・ジョルダン	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	1月	牟田口義郎・鴨彌彦
9月	加藤紘一	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	2月	牟田口義郎・鴨彌彦
10月	船田元	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	3月	牟田口義郎・鴨彌彦
11月	藤井治芳	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	4月	牟田口義郎・鴨彌彦
12月	児玉幸治	—新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	5月	牟田口義郎・鴨彌彦
1998年1月	大来洋一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	6月	牟田口義郎・鴨彌彦
2月	佐藤文夫	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	7月	牟田口義郎・鴨彌彦
3月	渡辺修	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	8月	牟田口義郎・鴨彌彦
4月	野中广務	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	9月	牟田口義郎・鴨彌彦
5月	小倉和夫	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	10月	牟田口義郎・鴨彌彦
6月	賀来龍三郎	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	11月	牟田口義郎・鴨彌彦
7月	細川興一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	12月	牟田口義郎・鴨彌彦
8月	大場智満	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	1月	牟田口義郎・鴨彌彦
9月	坂田正明	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	2月	牟田口義郎・鴨彌彦
10月	堀田正力	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	3月	牟田口義郎・鴨彌彦
11月	鷲尾悦也	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	4月	牟田口義郎・鴨彌彦
12月	八城政基	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	5月	牟田口義郎・鴨彌彦
1999年1月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	6月	牟田口義郎・鴨彌彦
2月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	7月	牟田口義郎・鴨彌彦
3月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	8月	牟田口義郎・鴨彌彦
4月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	9月	牟田口義郎・鴨彌彦
5月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	10月	牟田口義郎・鴨彌彦
6月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	11月	牟田口義郎・鴨彌彦
7月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期絏済ビジョン	12月	牟田口義郎・鴨彌彦
8月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期絏済ビジョン	1月	牟田口義郎・鴨彌彦
9月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期絏済ビジョン	2月	牟田口義郎・鴨彌彦
10月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期絏済ビジョン	3月	牟田口義郎・鴨彌彦
11月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期絏済ビジョン	4月	牟田口義郎・鴨彌彦
12月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期絏済ビジョン	5月	牟田口義郎・鴨彌彦
1999年1月	牟田口義郎・鴨彌彦	新公共投資基本計画と中期絏済ビジョン	6月	牟田口義郎・鴨彌彦
2月	牟田口義郎・鴨彌彦			

2017年5月	白石 隆	トランプ時代の外交政策
6月	海輪 誠	－アジア太平洋地域を中心とした地域に根ざす経営
7月	浅川 雅嗣	－欧州複合危機とその世界的含意（東日本大震災を乗り越えて）
8月	遠藤 乾	－LNGの今後とJERAの役割
9月	垣見 祐二	－安倍長期政権の行方
10月	加藤 清隆	－日本周辺で何が起こっているか？
11月	中山 優宏	－野生の思考と未来の人材育成
12月	岡本 唯夫	－习近平時代の中国を読む
2018年1月	柳瀬 浩	－地球と共に存する経営
2月	大鹿 行宏	－平成30年度予算のポイントと財政の課題
3月	中山 俊宏	－トランプ政権1年、異形の大統領の内政と外交
4月	森 英介	－最近の通商政策と今後の方向性
5月	森 加藤 出	－日本の進むべき道
6月	森 優司	－平成30年度予算のポイントと財政の課題
7月	平岩 俊司	－トランプ政権1年、異形の大統領の内政と外交
8月	大隅 良典	－日本の進むべき道
9月	大隅 良典	－日本の進むべき道
10月	大隅 良典	－日本の進むべき道
11月	大隅 良典	－日本の進むべき道
12月	岩並 秀一	－日本の進むべき道
2019年1月	小野寺五典	－日本経済の新しい姿
2月	阪田 涉	－北朝鮮情勢
3月	姉川 尚史	－米朝会談後の北朝鮮情勢
4月	竹内 芳明	－政治主導と安全保障政策
5月	竹村公太郎	－超量的緩和の行方
6月	岸田 文雄	－オートファジー研究から見えてきた生命像
7月	兼原 俊哉	－我が国を取り巻く現状と海上保安庁の対応
8月	神田 真人	－日本を取り巻く安全保障環境
9月	神田 真人	－米中貿易戦争の行方
10月	高市 早苗	－オートファジー研究から見えてきた生命像
11月	奥田 遼藤	－我が国を取り巻く現状と海上保安庁の対応
12月	宮本 雄二	－平成31年度予算と財政のポイント
2020年1月	小野寺五典	－世界の安全保障環境はどう変化するか
2月	阪田 涉	－これから予想される大規模災害と企業のレジリエンス
3月	姉川 尚史	－世界の安全保障環境はどう変化するか
4月	竹内 芳明	－世界の安全保障環境
5月	竹村公太郎	－世界の安全保障環境
6月	岸田 文雄	－世界の安全保障環境
7月	柳瀬 浩	－2050年の経済霸権
8月	大隅 良典	－2050年の経済霸権
9月	大隅 良典	－2050年の経済霸権
10月	大隅 良典	－2050年の経済霸権
11月	大隅 良典	－2050年の経済霸権
12月	岩並 秀一	－2050年の経済霸権
2021年1月	金子 穎則	－世界の安全保障環境
2月	宇波 弘貴	－世界の安全保障環境
3月	中島 正愛	－世界の安全保障環境
4月	市川 恵一	－世界の安全保障環境
5月	木村 昌人	－世界の安全保障環境
6月	福原 正大	－世界の安全保障環境
7月	寺澤 達也	－世界の安全保障環境
8月	大栗 宏	－世界の安全保障環境
9月	田和 滉	－世界の安全保障環境
10月	田和 滉	－世界の安全保障環境
11月	寺澤 達也	－世界の安全保障環境
12月	寺澤 達也	－世界の安全保障環境
2022年1月	芹川 洋一	－中部電力の事業戦略
2月	坂本 基	－岸田政権の課題と展望
3月	北村 聰	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来
4月	藤井 博司	－夕日を釣り上げた男
5月	大栗 宏	－クラゲ館長の経営哲學
6月	田和 滉	－日本の通商政策の現状と戦略化をめざして
7月	寺澤 達也	－2020年以降の日本
8月	河野 克俊	－日本の通商政策の現状と戦略化をめざして
9月	宮家 邦彦	－日本の通商政策の現状と戦略化をめざして
10月	三宮 清治	－日本の通商政策の現状と戦略化をめざして
11月	三宮 清治	－日本の通商政策の現状と戦略化をめざして
12月	芹川 洋一	－日本の通商政策の現状と戦略化をめざして
2023年1月	大竹 文雄	－電気事業の展望
2月	坂本 基	－中部電力の事業戦略
3月	北村 聰	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来
4月	藤井 博司	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来
5月	大栗 宏	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来
6月	田和 滉	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来
7月	寺澤 達也	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来
8月	河野 克俊	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来
9月	宮家 邦彦	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来
10月	三宮 清治	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来
11月	三宮 清治	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来
12月	芹川 洋一	－エネルギー基本計画の考え方とボピュリズムは民主主義の新たな将来

私の生き方

私の生き方

1970年3月	牧田興一郎	こういう「きたえられ方」
4月	瀬川美能留	「マイ・カンパニーのすすめ
5月	長谷川周重	仕事のできる男は家ではよわい
6月	大久保謙	素手でも日本を守ろう
7月	田口連三	「上役」をつかって仕事をしよう
8月	稻山嘉寛	風が吹いたら帆をあげよ
9月	藤野忠次郎	平凡だから順調に育つた
10月	中山素平	もつとも効率のあるものがそれ
11月	瀬川美能留	をやれ
12月	寺尾嘉寛	大事は軽く、小事は重く
1971年1月	赤坂知男	「いばる奴は大きいです
2月	広岡通夫	「運命」の流れの中に
3月	横山宏治	驚くな、あわてるな、怒るな
4月	小林秀雄	自分を追いつめ、追いつめる
5月	鈴木武夫	「正論」を実行しよう
6月	三木方齊	オボシユニストほど採算があわ
7月	日向一雄	ない人生はない
8月	桧山広	「古人刻苦必ず盛大なり
9月	前田七之進	「ぎかん坊」が修養つんで四十年
10月	田實涉	「誠意なき人間社会は認めない
11月	岡崎嘉平太	「マイペース」で歩いた七十年
12月	河野文彦	「経営はこれ統帥なり」
1972年1月	永田敬生	大衆と一緒に生きる
2月	太田文平	「おしめの下をくぐれ」常に
3月	大槻文薰	「おしめの下をくぐれ」常に
4月	柴山幸雄	仕事を一心にやり、仕事を楽し
5月	東海林武雄	「信じたらそこへゆけ、真似は
6月	浅井孝二	するな」
1973年1月	牧田興一郎	「ノーバル」と言える男になろう
2月	寺尾嘉寛	心に故郷をもとう
3月	古賀繁一	死んだら寝られる、生きてるう
4月	木村武雄	「池の中で鯨をもたせた」
5月	正木千冬	「ノーバル」と言える男になろう
6月	市川誠	大雪の朝故郷をあとに
7月	宮地政司	「有限の命を『三昧教』で生きる
8月	赤城宗徳	地主の子から農民運動へ
9月	藤井丙午	大ロマンチスト」たれ
10月	赤城宗徳	死んだら寝られる、生きてるう
11月	河野謙三	「池の中で鯨をもたせた」
12月	寺尾嘉寛	「ノーバル」と言える男になろう

1977年1月	若月俊一	或る農村医師が歩いた
2月	楫取正彦	「センチメンタル・ヒューマニズムの半生」
3月	ヨゼフ・ピタウ	煩惱の東京シユバイツアーレ伝
4月	三笠宮寛仁	「山谷、どんな人間も死んではいけない」
5月	吳清源	「戦後三十年のニッポン史断面」
6月	平山郁夫	「大衆と接觸することが大切」
7月	河井信太郎	「経営はこれ統帥なり」
8月	楳枝元文	「おしめの下をくぐれ」常に
9月	リッカルド・	「おしめの下をくぐれ」常に
10月	市川房枝	「大衆と一緒に生きる」
11月	佐々学	「おしめの下をくぐれ」常に
12月	伏見康治	「大衆と一緒に生きる」
1978年1月	向坂逸郎	「大衆と一緒に生きる」
2月	永野重雄	「大衆と一緒に生きる」
3月	永野重雄	「大衆と一緒に生きる」
4月	永井道雄	「大衆と一緒に生きる」
5月	藤沢秀行	「大衆と一緒に生きる」
6月	宮田義二	「大衆と一緒に生きる」
7月	太田薫	「大衆と一緒に生きる」
8月	伊藤三郎	「大衆と一緒に生きる」
9月	三遊亭圓生	「大衆と一緒に生きる」
10月	ゲルト・クナッパー	「大衆と一緒に生きる」
11月	ゲルト・クナッパー	「土修行異人伝」
12月	ゲルト・クナッパー	「ナードリーチの奨めで益子へ」
1979年1月	石田博英	三十年間凝視つづけた
2月	川又克二	バクさんの「自民党政史」
3月	佐々木良作	「無欲が合理」を生きる
4月	丸木位里	私の経営論
5月	高川栄一	反主流の道を往く
6月	小川秀格	「ステーツマンのいない国」
7月	守屋学治	人生
8月	中島健藏	ストライキ・紅燈の巷・行動的
9月	森八三一	人生
10月	佐々木更三	人生
1980年1月	石田博英	反主流の道を往く
2月	川又克二	「実証」をつらぬいて生きる
3月	田中伊三次	人生
4月	岩尾一	人生
5月	多賀谷真穂	人生
6月	亨リイ・ミトワ	人生
7月	田中伊三次	人生
8月	G・R・ベーカー	人生
9月	富塚三夫	人生
10月	法眼晋作	人生
11月	松尾金藏	人生
12月	平賀潤二	人生
1981年1月	青地晨	反骨転々
2月	西丸震哉	横浜事件から金大
3月	西丸震哉	中へ自由と眞実を追い求めて
4月	金丸信	ニユーギニア食人種部落を往く
5月	坂田光雄	「現地人に野蛮人と言われた男
6月	坂田光雄	の話
7月	大内啓伍	「影武者伝」――脇に徹して
8月	大内啓伍	「おのが力と思うなよ」――師佐
9月	大内啓伍	藤作から学んだ政治実践録
10月	大内啓伍	「有史有魂」日乗
11月	尾本信平	「なんとかなるさ」の哲学
12月	松尾泰一郎	「雲水から事業の世界へ
1982年1月	竹下登	「野次馬一代」――自分をひやかす
2月	植村光雄	「トランプ」は全力投球する
3月	尾本信平	「人間にくず」はない
4月	三村庸平	「トランプ」は人生
5月	坂田光雄	「人間社会」の在る場所を見つ
6月	坂田光雄	けよう
7月	坂田光雄	18ホールと洗面所――打うて
8月	坂田光雄	ばそれが人生のスタートだ
9月	坂田光雄	「有余不尽の意志」――目いっぱい
10月	宮崎輝	いやるな、ひとりを持て
11月	横山隆一	直視する
12月	鄭敬謨	「自ら持てにしかず」
1983年1月	岩井章	「ある政党政治家の履歴
2月	今井正雄	十年さみの風雪の中を
3月	金森政雄	涙のある人を尊敬する
4月	金森政雄	原爆の炎の下から
5月	金森政雄	口に塗を突っこまれて
6月	金森政雄	「ノーバル」と言える男になろう
7月	金森政雄	心に故郷をもとう
8月	金森政雄	死んだら寝られる、生きてるう
9月	金森政雄	「池の中で鯨をもたせた」
10月	金森政雄	「ノーバル」と言える男になろう
11月	金森政雄	大雪の朝故郷をあとに
12月	金森政雄	「有限の命を『三昧教』で生きる
1984年1月	寺尾嘉寛	地主の子から農民運動へ
2月	寺尾嘉寛	大ロマンチスト」たれ
3月	寺尾嘉寛	死んだら寝られる、生きてるう
4月	寺尾嘉寛	「池の中で鯨をもたせた」
5月	寺尾嘉寛	「ノーバル」と言える男になろう
6月	寺尾嘉寛	心に故郷をもとう
7月	寺尾嘉寛	死んだら寝られる、生きてるう
8月	寺尾嘉寛	「池の中で鯨をもたせた」
9月	寺尾嘉寛	「ノーバル」と言える男になろう
10月	寺尾嘉寛	心に故郷をもとう
11月	寺尾嘉寛	死んだら寝られる、生きてるう
12月	寺尾嘉寛	「池の中で鯨をもたせた」

1982年1月	寺尾嘉寛	「走馬燈」の絵のよう……
2月	友納武人	「地主の子から農民運動へ
3月	友納武人	大ロマンチスト」たれ
4月	友納武人	死んだら寝られる、生きてるう
5月	友納武人	「池の中で鯨をもたせた」
6月	岩佐凱実	「ノーバル」と言える男になろう
7月	岩佐凱実	心に故郷をもとう
8月	岩佐凱実	死んだら寝られる、生きてるう
9月	岩佐凱実	「池の中で鯨をもたせた」
10月	岩佐凱実	「ノーバル」と言える男になろう
11月	岩佐凱実	心に故郷をもとう
12月	岩佐凱実	死んだら寝られる、生きてるう
1983年1月	寺尾嘉寛	「走馬燈」の絵のよう……
2月	寺尾嘉寛	「地主の子から農民運動へ
3月	寺尾嘉寛	大ロマンチスト」たれ
4月	寺尾嘉寛	死んだら寝られる、生きてるう
5月	寺尾嘉寛	「池の中で鯨をもたせた」
6月	寺尾嘉寛	「ノーバル」と言える男になろう
7月	寺尾嘉寛	心に故郷をもとう
8月	寺尾嘉寛	死んだら寝られる、生きてるう
9月	寺尾嘉寛	「池の中で鯨をもたせた」
10月	寺尾嘉寛	「ノーバル」と言える男になろう
11月	寺尾嘉寛	心に故郷をもとう
12月	寺尾嘉寛	死んだら寝られる、生きてるう
1984年1月	寺尾嘉寛	「走馬燈」の絵のよう……
2月	寺尾嘉寛	「地主の子から農民運動へ
3月	寺尾嘉寛	大ロマンチスト」たれ
4月	寺尾嘉寛	死んだら寝られる、生きてるう
5月	寺尾嘉寛	「池の中で鯨をもたせた」
6月	寺尾嘉寛	「ノーバル」と言える男になろう
7月	寺尾嘉寛	心に故郷をもとう
8月	寺尾嘉寛	死んだら寝られる、生きてるう
9月	寺尾嘉寛	「池の中で鯨をもたせた」
10月	寺尾嘉寛	「ノーバル」と言える男になろう
11月	寺尾嘉寛	心に故郷をもとう
12月	寺尾嘉寛	死んだら寝られる、生きてるう
1985年1月	寺尾嘉寛	「走馬燈」の絵のよう……
2月	寺尾嘉寛	「地主の子から農民運動へ
3月	寺尾嘉寨	大ロマンチスト」たれ
4月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
5月	寺尾嘉寨	「池の中で鯨をもたせた」
6月	寺尾嘉寨	「ノーバル」と言える男になろう
7月	寺尾嘉寨	心に故郷をもとう
8月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
9月	寺尾嘉寨	「池の中で鯨をもたせた」
10月	寺尾嘉寨	「ノーバル」と言える男になろう
11月	寺尾嘉寨	心に故郷をもとう
12月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
1986年1月	寺尾嘉寨	「走馬燈」の絵のよう……
2月	寺尾嘉寨	「地主の子から農民運動へ
3月	寺尾嘉寨	大ロマンチスト」たれ
4月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
5月	寺尾嘉寨	「池の中で鯨をもたせた」
6月	寺尾嘉寨	「ノーバル」と言える男になろう
7月	寺尾嘉寨	心に故郷をもとう
8月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
9月	寺尾嘉寨	「池の中で鯨をもたせた」
10月	寺尾嘉寨	「ノーバル」と言える男になろう
11月	寺尾嘉寨	心に故郷をもとう
12月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
1987年1月	寺尾嘉寨	「走馬燈」の絵のよう……
2月	寺尾嘉寨	「地主の子から農民運動へ
3月	寺尾嘉寨	大ロマンチスト」たれ
4月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
5月	寺尾嘉寨	「池の中で鯨をもたせた」
6月	寺尾嘉寨	「ノーバル」と言える男になろう
7月	寺尾嘉寨	心に故郷をもとう
8月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
9月	寺尾嘉寨	「池の中で鯨をもたせた」
10月	寺尾嘉寨	「ノーバル」と言える男になろう
11月	寺尾嘉寨	心に故郷をもとう
12月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
1988年1月	寺尾嘉寨	「走馬燈」の絵のよう……
2月	寺尾嘉寨	「地主の子から農民運動へ
3月	寺尾嘉寨	大ロマンチスト」たれ
4月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
5月	寺尾嘉寨	「池の中で鯨をもたせた」
6月	寺尾嘉寨	「ノーバル」と言える男になろう
7月	寺尾嘉寨	心に故郷をもとう
8月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
9月	寺尾嘉寨	「池の中で鯨をもたせた」
10月	寺尾嘉寨	「ノーバル」と言える男になろう
11月	寺尾嘉寨	心に故郷をもとう
12月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
1989年1月	寺尾嘉寨	「走馬燈」の絵のよう……
2月	寺尾嘉寨	「地主の子から農民運動へ
3月	寺尾嘉寨	大ロマンチスト」たれ
4月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
5月	寺尾嘉寨	「池の中で鯨をもたせた」
6月	寺尾嘉寨	「ノーバル」と言える男になろう
7月	寺尾嘉寨	心に故郷をもとう
8月	寺尾嘉寨	死んだら寝られる、生きてるう
9月	寺尾嘉寨	「池の中で鯨をもたせた」
10月	寺尾嘉寨	「ノーバル」と言える男になろう
11月	寺尾嘉寨	心に故郷をもとう

1990年8月 江田 五月	「人生模様」を映す政治をめざして……
9月 日下部悦二	「陽が昇るから、夜が明ける」道と「それから」で決断した政界入り
10月 中尾 武	「鉛筆を倒して決めた電気の道と『対話』が新しい価値を生む」
11月 中川 志郎	「人格・徳性を『ラシュアップ』した予科の『無監督テスト』」
12月 西岡 常一	「いま生命の大切さを知る」
1991年1月 龍野 富雄	「動物と生きた四十年、自然との共存の夢を追う」
2月 永倉 三郎	木のいのち、木のこころ
3月 相川賢太郎	「宮大工六十年、飛鳥の知恵で今、薬師寺伽藍再建に挑む」
4月 岡田 節人	「戦後復興の木勘忍しや」
5月 中尾 佐助	「地獄と天国、和顔愛語」で、戦後復興の木勘忍しや
6月 三宅 和助	「生き物は方圓の器に従う」
7月 佐々木秀典	「実験好きの文学青年が迷い込んだ、絶妙な細胞の世界」
8月 加藤 紘一	「記者志望が電力へ、勧誘や用地交渉に奔走した若き命の日々」
9月 阿部 謙也	「人生感想、巧名誰復論」
10月 日高 敏隆	「つまらない仕事を誠実に早くやつて、揃んだ最後の勝利」
1994年4月 山田 太一	「もぐら」の如く生きて……
5月 加藤一二三	「外務省の異端児」が歩いた「一眼同仁」
6月 行天 豊雄	「民主主義の理念を求めて歩む親父と、『違う道』」
7月 江尻宏一郎	「絵柄のないドラマ」の世界へ
8月 堀田 力	「現代の深奥に中世がある」
9月 田村 元	「修道院体験からヨーロッパ社会史の研究へ」
10月 亀谷 了	「アジア、中東の裏側」
11月 石田 芳夫	「芸術的感動に通じる妙手の発見」
12月 萱野 茂	「特捜検事から転身、高齢者福祉の世界へ」
1995年1月 金森 久雄	「忠実に、庶民感覚を持ち続けて……」
2月 隅谷三喜男	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
3月 大田 堯	「人生をやつて、『性善説』になつた」
4月 増井 光子	「年次の政界秘話」
5月 褐田 茂樹	「野生動物研究に取り組む女性園長奮闘記」
9月 矢口 高雄	「砂の社会」で見つけた文化的アリティー
8月 中村 隆英	「父の縁でロシア研究の道へ」
1996年1月 桜井徳太郎	日本文化の基層を求めて……
2月 吉井 淳二	「師・柳田国男を超えて東アジア比較民俗学に挑戦」
3月 猿谷 要	「根底にはいつも数学的思考が：」
4月 竹内 宏	「戦中に特殊兵器づくり、いま環境保全に尽力」
5月 秋葉 忠利	「タフ・ネゴシエーター」と呼ばれて……」
6月 秋岡 芳夫	「いつも同じことをやつてきた」
7月 吉井 淳二	「通商摩擦の最前線で見えた日米交渉の内側」
8月 黒田 真	「新聞記者、原子力、大使、いろいろやつたけれども」
9月 谷 正雄	「事に臨みて懼れ謀を好んでなす」
10月 村井 資長	「登山で学んだ危機管理を経営に活かす」
11月 内藤 國雄	「砂漠緑化にかける86歳の『生涯現役』」
12月 佐原 真	「伸び伸びじみじみ」と生きる「将棋も歌も『自在流』」の人生
1997年1月 江戸家猫八	「紹介人にはわれわれより崇高な心があつた」
2月 吉永 祐介	「考古少年を魅了した土器の紋様」
3月 牧 冬彦	「文化の起源『のれん』」
4月 牧 冬彦	「被爆体験を越えて貰いた芸の道」
5月 柳家小さん	「庶民派エコノミストの原点」
6月 北岡 隆	「過去・現在・未来への責任」
7月 新藤 兼人	「絵を描き続けて、九十三歳」
8月 増原 和郎	「『プラス』の可能性を追う『のれん』」
9月 川那部浩哉	「路地裏」にこそ経済はある
10月 森下 洋一	「庶民派エコノミストの原点」
11月 高野 悅子	「人生の転機に『路地裏』」
12月 網野 善彦	「人生の転機に『路地裏』」
1992年1月 猪木 正道	「人生模様」を映す政治をめざして……
2月 稲葉三千男	「人生模様」を映す政治をめざして……
3月 玉川 敏雄	「木のいのち、木のこころ」
4月 左藤 恵	「宮大工六十年、飛鳥の知恵で今、薬師寺伽藍再建に挑む」
5月 西岡 武夫	「戦後復興の木勘忍しや」
6月 アリフィン・ベイ	「生き物は方圓の器に従う」
7月 井之口章次	「もぐら」の如く生きて……
8月 大森 安恵	「外務省の異端児」が歩いた「一眼同仁」
9月 岡野加穂留	「民主主義の理念を求めて歩む親父と、『違う道』」
10月 秋山 富一	「絵柄のないドラマ」の世界へ
11月 横原 稔	「現代の深奥に中世がある」
12月 今井 隆吉	「修道院体験からヨーロッパ社会史の研究へ」
1993年1月 上山 保彦	「アジア、中東の裏側」
2月 黒田 真	「芸術的感動に通じる妙手の発見」
3月 近藤 次郎	「特捜検事から転身、高齢者福祉の世界へ」
4月 村井 資長	「忠実に、庶民感覚を持ち続けて……」
5月 横原 稔	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
6月 桜井徳太郎	「人生をやつて、『性善説』になつた」
7月 黒田 真	「年次の政界秘話」
8月 横原 稔	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
9月 谷 正雄	「人生をやつて、『性善説』になつた」
10月 村井 資長	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
11月 横原 稔	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
12月 今井 隆吉	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
1994年1月 宇澤 弘文	「人生をやつて、『性善説』になつた」
2月 山下 勇	「人生をやつて、『性善説』になつた」
3月 篠原 一	「人生をやつて、『性善説』になつた」
4月 岩村 昇	「人生をやつて、『性善説』になつた」
5月 寺澤 芳男	「人生をやつて、『性善説』になつた」
6月 國弘 正雄	「人生をやつて、『性善説』になつた」
7月 林 海峯	「人生をやつて、『性善説』になつた」
8月 中江 要介	「人生をやつて、『性善説』になつた」
9月 寺澤 芳男	「人生をやつて、『性善説』になつた」
10月 上原 康助	「人生をやつて、『性善説』になつた」
11月 齋藤 裕	「人生をやつて、『性善説』になつた」
12月 岩村 昇	「人生をやつて、『性善説』になつた」
1995年1月 矢口 高雄	「人生をやつて、『性善説』になつた」
2月 稲葉三千男	「人生をやつて、『性善説』になつた」
3月 玉川 敏雄	「人生をやつて、『性善説』になつた」
4月 西岡 武夫	「人生をやつて、『性善説』になつた」
5月 萩原 一	「人生をやつて、『性善説』になつた」
6月 國弘 正雄	「人生をやつて、『性善説』になつた」
7月 林 海峯	「人生をやつて、『性善説』になつた」
8月 中江 要介	「人生をやつて、『性善説』になつた」
9月 寺澤 芳男	「人生をやつて、『性善説』になつた」
10月 上原 康助	「人生をやつて、『性善説』になつた」
11月 齋藤 裕	「人生をやつて、『性善説』になつた」
12月 岩村 昇	「人生をやつて、『性善説』になつた」
1996年1月 桜井徳太郎	日本文化の基層を求めて……
2月 吉井 淳二	「師・柳田国男を超えて東アジア比較民俗学に挑戦」
3月 猿谷 要	「根底にはいつも数学的思考が：」
4月 竹内 宏	「戦中に特殊兵器づくり、いま環境保全に尽力」
5月 秋葉 忠利	「タフ・ネゴシエーター」と呼ばれて……」
6月 秋岡 芳夫	「いつも同じことをやつてきた」
7月 吉井 淳二	「通商摩擦の最前線で見えた日米交渉の内側」
8月 黒田 真	「新聞記者、原子力、大使、いろいろやつたけれども」
9月 谷 正雄	「事に臨みて懼れ謀を好んでなす」
10月 村井 資長	「登山で学んだ危機管理を経営に活かす」
11月 横原 稔	「砂漠緑化にかける86歳の『生涯現役』」
12月 佐原 真	「伸び伸びじみじみ」と生きる「将棋も歌も『自在流』」の人生
1997年1月 江戸家猫八	「紹介人にはわれわれより崇高な心があつた」
2月 畑中 正一	「考古少年を魅了した土器の紋様」
3月 吉永 祐介	「文化の起源『のれん』」
4月 牧 冬彦	「被爆体験を越えて貰いた芸の道」
5月 柳家小さん	「庶民派エコノミストの原点」
6月 北岡 隆	「過去・現在・未来への責任」
7月 新藤 兼人	「絵を描き続けて、九十三歳」
8月 増原 和郎	「『プラス』の可能性を追う『のれん』」
9月 川那部浩哉	「路地裏」にこそ経済はある
10月 森下 洋一	「庶民派エコノミストの原点」
11月 高野 悅子	「人生の転機に『路地裏』」
12月 網野 善彦	「人生の転機に『路地裏』」
1992年1月 猪木 正道	「人生模様」を映す政治をめざして……
2月 稲葉三千男	「人生模様」を映す政治をめざして……
3月 玉川 敏雄	「木のいのち、木のこころ」
4月 左藤 恵	「宮大工六十年、飛鳥の知恵で今、薬師寺伽藍再建に挑む」
5月 西岡 武夫	「戦後復興の木勘忍しや」
6月 アリフィン・ベイ	「生き物は方圓の器に従う」
7月 井之口章次	「もぐら」の如く生きて……
8月 大森 安恵	「外務省の異端児」が歩いた「一眼同仁」
9月 岡野加穂留	「民主主義の理念を求めて歩む親父と、『違う道』」
10月 秋山 富一	「絵柄のないドラマ」の世界へ
11月 横原 稔	「現代の深奥に中世がある」
12月 今井 隆吉	「修道院体験からヨーロッパ社会史の研究へ」
1993年1月 上山 保彦	「アジア、中東の裏側」
2月 黒田 真	「芸術的感動に通じる妙手の発見」
3月 近藤 次郎	「特捜検事から転身、高齢者福祉の世界へ」
4月 村井 資長	「忠実に、庶民感覚を持ち続けて……」
5月 横原 稔	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
6月 桜井徳太郎	「人生をやつて、『性善説』になつた」
7月 黒田 真	「年次の政界秘話」
8月 横原 稔	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
9月 谷 正雄	「人生をやつて、『性善説』になつた」
10月 村井 資長	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
11月 横原 稔	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
12月 今井 隆吉	「父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』」
1994年1月 宇澤 弘文	「人生をやつて、『性善説』になつた」
2月 山下 勇	「人生をやつて、『性善説』になつた」
3月 篠原 一	「人生をやつて、『性善説』になつた」
4月 岩村 昇	「人生をやつて、『性善説』になつた」
5月 寺澤 芳男	「人生をやつて、『性善説』になつた」
6月 國弘 正雄	「人生をやつて、『性善説』になつた」
7月 林 海峯	「人生をやつて、『性善説』になつた」
8月 中江 要介	「人生をやつて、『性善説』になつた」
9月 寺澤 芳男	「人生をやつて、『性善説』になつた」
10月 上原 康助	「人生をやつて、『性善説』になつた」
11月 齋藤 裕	「人生をやつて、『性善説』になつた」
12月 岩村 昇	「人生をやつて、『性善説』になつた」
1995年1月 矢口 高雄	「人生をやつて、『性善説』になつた」
2月 稲葉三千男	「人生をやつて、『性善説』になつた」
3月 玉川 敏雄	「木のいのち、木のこころ」
4月 西岡 武夫	「戦後復興の木勘忍しや」
5月 秋葉 忠利	「生き物は方圓の器に従う」
6月 秋岡 芳夫	「もぐら」の如く生きて……
7月 吉井 淳二	「外務省の異端児」が歩いた「一眼同仁」
8月 増原 和郎	「民主主義の理念を求めて歩む親父と、『違う道』」
9月 田村 元	「現代の深奥に中世がある」
10月 亀谷 了	「修道院体験からヨーロッパ社会史の研究へ」
11月 石田 芳夫	「アジア、中東の裏側」
12月 萱野 茂	「芸術的感動に通じる妙手の発見」
1996年1月 桜井徳太郎	日本文化の基層を求めて……
2月 吉井 淳二	「師・柳田国男を超えて東アジア比較民俗学に挑戦」
3月 猿谷 要	「根底にはいつも数学的思考が：」
4月 竹内 宏	「戦中に特殊兵器づくり、いま環境保全に尽力」
5月 秋葉 忠利	「タフ・ネゴシエーター」と呼ばれて……」
6月 秋岡 芳夫	「いつも同じことをやつてきた」
7月 吉井 淳二	「通商摩擦の最前線で見えた日米交渉の内側」
8月 黒田 真	「新聞記者、原子力、大使、いろいろやつたけれども」
9月 谷 正雄	「事に臨みて懼れ謀を好んでなす」
10月 村井 資長	「登山で学んだ危機管理を経営に活かす」
11月 横原 稔	「砂漠緑化にかける86歳の『生涯現役』」
12月 佐原 真	「伸び伸びじみじみ」と生きる「将棋も歌も『自在流』」の人生
1997年1月 江戸家猫八	「紹介人にはわれわれより崇高な心があつた」
2月 畑中 正一	「考古少年を魅了した土器の紋様」
3月 吉永 祐介	「文化の起源『のれん』」
4月 牧 冬彦	「被爆体験を越えて貰いた芸の道」
5月 柳家小さん	「庶民派エコノミストの原点」
6月 北岡 隆	「過去・現在・未来への責任」
7月 新藤 兼人	「絵を描き続けて、九十三歳」
8月 増原 和郎	「『プラス』の可能性を追う『のれん』」
9月 川那部浩哉	「路地裏」にこそ経済はある
10月 森下 洋一	「庶民派エコノミストの原点」
11月 高野 悅子	「人生の転機に『路地裏』」
12月 網野 善彦	「人生の転機に『路地裏』」

1998年1月	趙 治勲	「変化図」の多い人生を味わいたい
2月	藤田紘一郎	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
3月	小柴 昌俊	生まれて一秒後の宇宙を観測する警鐘
4月	ちばてつや	「寄生虫博士が鳴らす日本人への夢」
5月	春風亭柳昇	「大三冠棋士が求め続ける囲碁の道」
6月	大林 太良	「寄生虫博士が鳴らす日本人へ生まれて一秒後の宇宙を観測する警鐘」
7月	河上 和雄	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
8月	中村 紘子	「大三冠棋士が求め続ける囲碁の道」
9月	松野 賴三	「寄生虫博士が鳴らす日本人への夢」
10月	鳥海 嶽	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
11月	羽田 澄子	「大三冠棋士が求め続ける囲碁の道」
12月	丹羽宇一郎	「寄生虫博士が鳴らす日本人への夢」
2002年1月	都留 重人	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
3月	竹内 均	「大三冠棋士が求め続ける囲碁の道」
4月	片山 豊	「寄生虫博士が鳴らす日本人への夢」
5月	日沼 賴夫	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
6月	三遊亭金馬	「寄生虫博士が鳴らす日本人への夢」
7月	子安美知子	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
8月	青木 淳一	「寄生虫博士が鳴らす日本人への夢」
9月	河合 隼雄	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
10月	中村 桂子	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
11月	觀世 肇夫	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
12月	小泉 武夫	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
2003年1月	森 浩一	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
2月	大田 昌秀	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」

—戦後の人生を決めた沖縄戦体験

2月	藤田紘一郎	原始人に戻ろう、
3月	小柴 昌俊	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
4月	ちばてつや	「大三冠棋士が求め続ける囲碁の道」
5月	春風亭柳昇	「寄生虫博士が鳴らす日本人への夢」
6月	大林 太良	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
7月	河上 和雄	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
8月	中村 紘子	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
9月	松野 賴三	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
10月	鳥海 嶽	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
11月	羽田 澄子	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
12月	丹羽宇一郎	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
2002年1月	都留 重人	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
3月	竹内 均	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
4月	片山 豊	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
5月	日沼 賴夫	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
6月	三遊亭金馬	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
7月	子安美知子	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
8月	青木 淳一	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
9月	河合 隼雄	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
10月	中村 桂子	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
11月	觀世 肇夫	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
12月	小泉 武夫	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
2003年1月	森 浩一	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」
2月	大田 昌秀	「ニユートリノ天文学の創始者の夢」

—戦後の人生を決めた沖縄戦体験

2000年1月	中坊 公平	「超システム」が持つ美しさ
2月	原 健三郎	鏡は空想のための装置
3月	藤原 正彦	「人生のベースは小学生までに本経済史
4月	江崎玲於奈	本経済史
5月	常盤 文克	「軍縮派エコノミストの戦後日
6月	奥本大三郎	「人生のベースは小学生までに本経済史
7月	多田 富雄	「超システム」が持つ美しさ
8月	奥本大三郎	鏡は空想のための装置
9月	江崎玲於奈	「人生のベースは小学生までに本経済史
10月	常盤 文克	「超システム」が持つ美しさ
11月	清家 清	虫に学ぶ
12月	藤原 正彦	虫に学ぶ
2001年1月	中坊 公平	虫に学ぶ
2月	原 健三郎	虫に学ぶ
3月	大竹 省二	虫に学ぶ
4月	花房秀三郎	虫に学ぶ
5月	五代 富文	虫に学ぶ
6月	田中 秀征	虫に学ぶ
7月	岡田 英弘	虫に学ぶ
8月	杉山 幸丸	虫に学ぶ
9月	黒木 靖夫	虫に学ぶ
10月	中坊 公平	虫に学ぶ
11月	清家 清	虫に学ぶ
12月	藤原 正彦	虫に学ぶ
2002年1月	中坊 公平	虫に学ぶ
2月	原 健三郎	虫に学ぶ
3月	大竹 省二	虫に学ぶ
4月	花房秀三郎	虫に学ぶ
5月	五代 富文	虫に学ぶ
6月	田中 秀征	虫に学ぶ
7月	岡田 英弘	虫に学ぶ
8月	杉山 幸丸	虫に学ぶ
9月	黒木 靖夫	虫に学ぶ
10月	中坊 公平	虫に学ぶ
11月	清家 清	虫に学ぶ
12月	藤原 正彦	虫に学ぶ

—戦後の人生を決めた沖縄戦体験

2001年1月	村山 富市	「お構いなく」
2月	村上陽一郎	「心」社会「進化」
3月	小林 達雄	「心」社会「進化」
4月	安野 光雅	「心」社会「進化」
5月	小平 桂一	「心」社会「進化」
6月	福原 義春	「心」社会「進化」
7月	多田 富雄	「心」社会「進化」
8月	奥本大三郎	「心」社会「進化」
9月	小林 達雄	「心」社会「進化」
10月	尾本 惠市	「心」社会「進化」
11月	樋口 陽一	「心」社会「進化」
12月	海部 宣男	「心」社会「進化」
2002年1月	中坊 公平	「心」社会「進化」
2月	村上陽一郎	「心」社会「進化」
3月	大竹 省二	「心」社会「進化」
4月	花房秀三郎	「心」社会「進化」
5月	五代 富文	「心」社会「進化」
6月	田中 秀征	「心」社会「進化」
7月	岡田 英弘	「心」社会「進化」
8月	杉山 幸丸	「心」社会「進化」
9月	黒木 靖夫	「心」社会「進化」
10月	中坊 公平	「心」社会「進化」
11月	清家 清	「心」社会「進化」
12月	藤原 正彦	「心」社会「進化」
2003年1月	中坊 公平	「心」社会「進化」
2月	原 健三郎	「心」社会「進化」
3月	大竹 省二	「心」社会「進化」
4月	花房秀三郎	「心」社会「進化」
5月	五代 富文	「心」社会「進化」
6月	田中 秀征	「心」社会「進化」
7月	岡田 英弘	「心」社会「進化」
8月	杉山 幸丸	「心」社会「進化」
9月	黒木 靖夫	「心」社会「進化」
10月	中坊 公平	「心」社会「進化」
11月	清家 清	「心」社会「進化」
12月	藤原 正彦	「心」社会「進化」

—戦後の人生を決めた沖縄戦体験

私の生き方

2016年1月	古市 剛史	高橋 三保子	藤森 照信	野村 萬	君原 健二	2010年1月	吉村 絵美留	クジラの海洋牧場	2009年1月	佐川 真人	上野 正彦	北川 正恭	2008年1月	河上 民雄	岡野俊一郎	
2月	向井 千秋	佐々淳行	喜憲	3月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
3月	坂 茂	鈴木 雅明	光男	4月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
4月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
5月	橋本 歌丸	桂木 周司	周司	6月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月

2018年7月	福田 錦江	2018年12月	深町眞理子	7月	柳沢 正史	2012年1月	富田 索	12月	アルフォンス・デーケン
8月	康夫	1月	豊田 有恒	8月	大田 弘	2月	樺山 純一	1月	「死の哲学」は「生の哲学」
9月	秀穂	10月	小倉 和夫	9月	山田 満知子	3月	谷内正太郎	1月	「死の哲学」は「生の哲学」
10月	正弘	11月	石飛 幸三	10月	岡ノ谷一夫	4月	小松 一憲	2月	「死の哲学」は「生の哲学」
11月	英公	12月	竹内 敬介	11月	葛西 敬之	5月	青木 功	3月	「死の哲学」は「生の哲学」
12月			野口 健	12月	田中 隆	6月	遠藤 誉	4月	「死の哲学」は「生の哲学」
			乗京 正弘	2月	田中 哲二	7月	大田 弘	5月	「死の哲学」は「生の哲学」
			西森 敬介	3月	葛西 敬之	8月	山田 満知子	6月	「死の哲学」は「生の哲学」
			3月	4月	5月	9月	10月	7月	「死の哲学」は「生の哲学」
			5月	6月	6月	11月	12月	1月	「死の哲学」は「生の哲学」
			6月	6月	6月	10月	11月	2月	「死の哲学」は「生の哲学」
						7月	8月	3月	「死の哲学」は「生の哲学」
						9月	10月	4月	「死の哲学」は「生の哲学」
						10月	11月	5月	「死の哲学」は「生の哲学」
						11月	12月	6月	「死の哲学」は「生の哲学」
								7月	「死の哲学」は「生の哲学」
								8月	「死の哲学」は「生の哲学」
								9月	「死の哲学」は「生の哲学」
								10月	「死の哲学」は「生の哲学」
								11月	「死の哲学」は「生の哲学」
								12月	「死の哲学」は「生の哲学」

6月	増田 明美	長瀧 重義
7月	宮川眞喜雄	土木技術者は地球の医者である 「佐久間ダム記録映画」が導いた コンクリート研究者の道
8月	佐々木 敏滋	「人は前に進みたい生き物」 オリンピックでつまずいて、 それでも走り続けた私の話
9月	近藤 一子	宇宙工学から転じた外交官 蝶と旅が導いた栄養疫学の世界
10月	小池 洋子	波が描く生命の形 誰も信じなかつた竊模様の謎解き
11月	森下 知英	アートと社会に架けた橋 現代に向き合い創造したオルタナティブな文化 平和 真の美しさを引き出す力 すべてはバレエから 電力会社の社長になつた 生意気な文学青年の歩み
12月	苅田	

5月	上野千鶴子	社会学は死ぬまでの極道 —弱さに寄り添うエビデンスと 理論を—
6月	古賀 誠	おふくろのような戦争未亡人を 再びこの国では絶対に出さない 佐渡島の連絡船から見たイルカ の飛翔
7月	宮田 亮平	「授業ボイコット」が導いた免 疫の世界
8月	宮坂 昌之	宇宙誕生の音に耳を澄ます
9月	杉山 直	偶然だった—親分肌の翻訳家 が大学の学長になるまでの物語
10月	木村 榮一	十勝の牧場で決めた建設業への 道と曾祖父が残した教訓
11月	奥村太加典	「成長・進化」絶えず変化する ことで人も組織も強くなる
12月	久和 進	一途に「面白主義」！ 新しい芸術の見方と—
年 1月	南 伸坊	

9月	島	泰三	アイアイの不思議な指全其闘
10月	西垣	通	A.I時代における文理融合のす
11月	西村京太郎	陸軍幼年学校で過ごした5ヵ月	め国民的ミステリー作家の原点
12月	村上龍男	クラゲ館長の「夢の水族館」	「ゾウリムシ研究でたどりついた
1月	高木由臣	「私の生命観」	神岡は私の研究人生のすべて
2月	梶田隆章	来ないエレベーターが結んだ縁	環境循環社会の中心にセメント
3月	不死原正文	ト産業がある	産業がある
4月	井上たかひこ	水中考古学がひらく「海のタ	アボロ11号月面着陸から英語教
5月	森本敏	イムカペセル」	育へ
6月	宮本雅文	安全保障の仕事に一生をかける	それでも走るのが好きだったた
7月	島崎久美子	人、出でよ	一三度目に掴んだオリンピック
8月	宗猛	山の鳴き声に耳を傾ける	の舞台
9月	小松正之	アボロ11号月面着陸から英語教	日本捕鯨・タフネゴシエーターの志
10月	石澤良昭	育へ	アントコール・ワットをカンボジ
11月	加藤寛幸	ア人の手に	ー遺跡修復とグローバル人材
12月	平野レミ	僕を「国境なき医師団」に導いた二つの出会い	育成
1月	北村雅良	キッチんから幸せ発信	の舞台
2月	水野和敏	僕の原点になつた「竹原火力3号機」立地交渉	日本捕鯨・タフネゴシエーターの志
3月	高村正彦	「ミスターGT-R」の非常識な本質	アントコール・ワットをカンボジ
4月	伊東四朗	ひとの幸せの総量を増やす	ー遺跡修復とグローバル人材
5月	加藤良三	外交・安保が私のライフワーク	育成
6月	斎藤成也	喜劇を演じることはとても怖い	アントコール・ワットをカンボジ
		んです	ー遺跡修復とグローバル人材
		野球が導いた外交官の道	育成
		学問はひとつ	アントコール・ワットをカンボジ
		ヤボネシアゲノムが解明する	ー遺跡修復とグローバル人材

7月	阿刀田 高	私は小説家には向いていないが、たった
8月	富野由悠季	ガンドム監督の「敗北者宣言」
9月	妹島 和世	創造性の連続が起る建築
10月	土井 正博	「18歳の4番打者」が辿り着いた
11月	海部 陽介	3万年前の航海再現で迫る「ト
12月	水村 美苗	バッティングの極意
2021年1月	水野 英子	間の本当の姿」
2月	伊部 菊雄	私は近代日本文学の最後に立
3月	吉増 剛造	た者
4月	今野 勉	青春のトキワ荘と私の漫画家
5月	三宅 義信	生
6月	石野 良純	たった一行の提案書が生んだ
7月	阿川 尚之	「G-SHOCK」
8月	三國 清三	詩の声に耳をます
9月	未唯 mie	朝から晩までテレビのことを考
10月	片山 右京	えてきた
11月	海輪 誠	「自分流」でつかんだ金メダル
12月	山本 伊吹	「東京五輪に向けた1460回
2022年1月	井手 文明	の挑戦
2月	佐々木 勉	奇妙な繰り返し配列クリスパー
3月	佐々木 穀	の謎
4月	広瀬 茂男	人との出会い、アメリカとの山
5月	若宮 正子	会い、憲法との出会い
6月	石野 良純	日本人としてつくる僕のフラン
7月	阿川 尚之	ス料理
8月	三國 清三	山と谷を乗り越えて、今の私が
9月	未唯 mie	ある「ビンク・レディー」
10月	片山 右京	はかけがえのない経験
11月	海輪 誠	僕はF1で得たものばかりで
12月	山本 伊吹	失ったものは何一つなかつた
		朝の来ない夜はない
		東日本大震災を乗り越える
		運慶に会いに行く
		硬球をバットで打ったあの感動
		からはじまつた
		東大野球部からドラゴンズへ
		東大総長になつた牛飼いの少年
		政治制度改革の舞台裏
		社会に役立つロボットの創造開
		発
		「英知」という翼を持つた母
		母最高峰プログラマ

6月	蛭子能秀	死がないように自由に生きる
7月	帰山雅秀	サケの生き方に学ぶ
8月	橋本久美子	総理夫人の愛の讃歌
9月	猪熊兼勝	がキトラ古墳の壁画を今に伝えたのか？
10月	石倉洋子	誰がグレートリセットをするのか？
11月	千葉昭	「公益の心」を大切に
12月	山本正之	デビューカーブは自分への応援歌だった
2023年1月	長塚京三	「タイムボカン」は私の宝物
2月	永田和宏	フランスより、誰も見たことのない景色を求めて
3月	橋爪大三郎	恋と短歌とタンバク質——私の人生のいちばんの意味は？
4月	片山一道	知識と知識の隙間をなくす
5月	戸田奈津子	「大きな社会学」のすすめ
6月	横尾忠則	古人骨が語る声を聴く
7月	佐藤義則	人類学者が辿ったボリネシアの「海の道」
8月	大島理森	映画愛が背中を押した
9月	宇崎竜童	夢を信じた20年の軌跡
10月	原昌宏	我々は、答えない世界に住んでいる
11月	S A M	「日本」の投手コーチの原点
12月	真弓明彦	人間も國も生かされて生きている——国会を知り尽くした政治家が語る民主主義の原点
2024年1月	林家木久扇	校庭で流れたブレスリー——ロックンロールの先駆者が語る50年目の新境地
2月	谷川俊太郎	カイゼンから生まれた
3月	谷川浩司	ダンスに捧げたあの日々を
4月	加賀美幸子	北海道の発展に尽力する
		好きな言葉は「入金」と「売上」です
		「無冠の九段」になつてから見えた将棋のおもしろさ
		どう生きようか、生きようぞ
		詩は動いている
		——落語と漫画と木久扇ラーメン

4月	体験的、日中経済、新時代への模索——日本企業人の見た中国対外開放政策	野村 清洋
5月	「浸食」から「崩壊」への構図——地球表土流亡と森林死滅の打開策	石田 錠二
6月	レーガン「中美・カリブ戦略」の行方——浅田駐グアテマラ大使と谷川中米特派員に聞く	小田川圭重
7月	知日派学者との対話——G.R.パッカード	小島 慶三
8月	「日米ギャップ」をどうする——米大統領選と対日経済・防衛政策	浅田 泰三
9月	38度線「危機と共存」の回路——朝鮮半島をめぐる米中ソの思惑を読む	古森 義久
10月	保守政治の「ラック・ボックス」——自民党の収票メカニズムとその未来を分析する	岡野加穂留
11月	「東西冷戦構造」に異変あり!——欧州の米国離れとそのジレンマ	吉野 文六
12月	八五年ニッポンの「政変」を占う——解散は中曾根首相の命取りにクレムリンの新しい対日戦略をシナリオ読む——85年グロムコ訪日	伊藤 光彦
1月	「太平洋の世紀」はバラ色か?——新構想がはらむ危機と連帶の未来	広瀬 道貢
2月	SDI「イコール・スター」——「戦略防衛構想」を検証する	岡森 義久
3月	クレムリン・ウォッチャヤーが見たゴルバチョフ・ソ連の明と暗——「世代交代」は時代の流れだ	西村 義夫
4月	大河原前駐米大使に聞く——日本の「国際的孤立主義」が摩擦の原因だ	木村 晃三
5月	ゴルバチョフとレーガンが握手する日——	三塚 博
6月	日本E.C委員会代表に聞く——ワシントンでいま何が起こって	渡部 恒三
7月	駐日E.C委員会代表に聞く——日本の「国際的孤立主義」が摩擦の原因だ	林 雄一郎
8月	ゴルバチョフとレーガンが握手する日——	小西 昭之
9月	中曾根首相の「危機」——	高木 智

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
「アラブ湾岸」危機の分析 ——石油・パレスチナ・米ソ激突 ——危機の選択——日米 関係の未来を推論する	ドゴールの遺産と ジスカル・デ・スタンの野望 ——権力の『責任』 ——多數は正義を約束するか	病める米国の選択——保守へ の回帰とりーガンの野心 ——匿名座談会 ——再編の内幕、現場からの証言 ——歴史を生かす市民運動へ	石油戦争『サバイバル』 ——米中軍事協力と日本の『選択』 ——中東戦争の真相を掘る ——81アラブ世界への展望	『中国国防軍』の実態 ——米軍事協力と日本の『選択』 ——中東戦争の真相を掘る ——81アラブ世界への展望	『レーガン大統領への期待と不安』 ——ASEAN同行三紙記者が 『内幕』を語る ——日本国総理『裸の外遊記』の てんまつ ——いま中国で何が起きているか? ——鄧体制をゆさぶる経済危機と 軍の動向 ——『新聞批判』に答える	『日本の選択とジャーナリズム』 の責務 ——イラン・イラク戦争の証言① ——イラクはペルシャの『拡張主義』 ——戦う ——イラン・イラク戦争の証言② ——これはワシントン ——バグダッドの陰謀だ!	「アラブ湾岸」危機の分析 ——石油・パレスチナ・米ソ激突 ——危機の選択——日米 関係の未来を推論する	G·B·リンクワード ——K·アズハリ ——伊藤 力司 ——細見 卓 ——筑紫 哲也 ——宇都宮徳馬 ——田中伊三次 ——松岡 英夫 ——中尾 光昭 ——本間 長世 ——吉原 文雄 ——宇佐美 実 ——丹藤 佳紀 ——岡倉 徹志 ——西澤憲一郎 ——鈴木 康雄 ——岩村 立郎 ——松本 長崎 ——和夫 ——赤松 大麓 ——岡部 達味 ——尾上 悅三 ——大麓 ——三千男 ——岸田純之助 ——アル・ジャフ ——小林 慶二 ——ガセム・サ ——アレフ・ホウ ——小林 慶二 ——小林 慶二	陸川 三郎 川田 優 川田 優 牟田口義郎 牟田口義郎 細見 卓 細見 卓 筑紫 哲也 宇都宮徳馬 田中伊三次 松岡 英夫 中尾 光昭 本間 長世 吉原 文雄 宇佐美 実 丹藤 佳紀 岡倉 徹志 西澤憲一郎 鈴木 康雄 岩村 立郎 松本 長崎 和夫 赤松 大麓 岡部 達味 尾上 悅三 大麓 三千男 岸田純之助 アル・ジャフ 小林 慶二 ガセム・サ アレフ・ホウ 小林 慶二						

1993年5月	「地方分権」が日本を変える —知事が語る「政治改革」へ の戦略	長野士郎	8月	混沌の中に明かりが見えてきた? 伊藤
6月	「北朝鮮はどこへ行くか? —政治はこう変わる!	平松守彦	9月	深層ルワンダ現地報告と大量虐殺の
7月	—複雑骨折した政界再編と 政治改革のゆくえ	川島正英	10月	金正日・北朝鮮はどこへゆく? —政界再編の「第三の波」と
8月	—真の「政治改革」は摩擦を 解消する!	伊豆見康元	11月	21世紀の政治 —安定の条件と危機のシナリオ
9月	—分水嶺に立った「外在依存国家」 の命運	山口二郎	12月	日本の安全保障政策の「盲点」
10月	—日本は最悪のシナリオに備えよ —生活重視の政治と細川政権への 注文	岩見隆夫	1月	官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている?
11月	—政治改革のゆくえ —もはや「変革」のラストチャンス	岸本重陳	2月	アメリカは「孤立主義」へ向か
12月	—「九月十三日」から時計は回り 始めた「パレスチナ暫定自治政 府」を包括和平の険しい路	立山明史	3月	エリツィンの歴史的使命は終わ った?
1994年1月	—駐日チエコ大使に聞く 「抑圧」から解かれ、いま 溢れるチエコの経済力	池田博康	4月	「ボストン小平」の中国を読む
2月	—何のための税調答申か? —税制改革の「歪み」を糺す	八田達夫	5月	2月 深層「チベット問題」の知られざるベマ・ギャルボ
3月	—日本の「コメ」は救えるか? —壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言	平田昌弘	6月	3月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
4月	—立つ農業への緊急提言 —ボストン小平が「最大のハードル」になる	高井潔司	1995年1月	21世紀のグランド・ストラテジイを求めて —宗教にアクセスする法を忘れた日本人 —ビジョンなき政治に「喝」を入れる! —日本の長寿は決して誇りにならない —「終末期医療」の先端で考える医の心 —「ペトナム市場」の幻想と素顔
5月	—「チヤイナ・ウォツチャヤー」が 見た中国経済の実像	山崎博彦	1月	1月 ビジョンなき日本工ネルギー
6月	—日本は国連心主義を選択した? —ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える	唯是康彦	2月	2月 「日没」ビジョンなき日本工ネルギー
7月	—若者はほんとに「理工系離れ」 —ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える	鶴尾敏樹	3月	3月 「橋本行革」への大きな疑問符
8月	—「金融システム危機」への処 方箋	鶴田茂樹	4月	4月 「橋本行革」への大きな疑問符
9月	—春闘はグローバル・スタンダード? —アメリカ一極支配の幻想	伊豆見元	5月	5月 「橋本行革」への大きな疑問符
10月	—21世紀の日口関係への提言K.O.・サルキソフ —この五年間の政治は不毛だった —連立政権の功罪と21世紀への 提言	坂内富士男	6月	6月 「橋本行革」への大きな疑問符
11月	—21世紀の地球・人類・文明を考 える	鈴木徹彦	7月	7月 「橋本行革」への大きな疑問符
12月	—市場は中立公正な政治を 求めている	吉川弘之	8月	8月 「橋本行革」への大きな疑問符
1995年1月	—小淵内閣への期待と懸念 —社会保障制度を北欧に学ぶ —「22世紀」を見据えたスウェ ーデン	吉川信彦	9月	9月 「橋本行革」への大きな疑問符
2月	—米国は「日本復活」を期待して いる	牛尾治朗	10月	10月 「橋本行革」への大きな疑問符
3月	—「日米関係のカギ握る経済政策 —改革と再建への緊急処方箋 —今そこにあるニーズを探れ!	赤座正和	11月	11月 「橋本行革」への大きな疑問符
4月	—「初心を忘れた日本企業と 「勝ち組の法則」	鈴木浩一	12月	12月 「橋本行革」への大きな疑問符
5月	—21世紀の日口関係への提言K.O.・サルキソフ —この五年間の政治は不毛だった —連立政権の功罪と21世紀への 提言	五十嵐武士	1月	1月 「橋本行革」への大きな疑問符
6月	—春闘はグローバル・スタンダード? —アメリカ一極支配の幻想	鈴木豊	2月	2月 「橋本行革」への大きな疑問符
7月	—21世紀の地球・人類・文明を考 える	鈴木元	3月	3月 「橋本行革」への大きな疑問符
8月	—市場は中立公正な政治を 求めている	寺島実郎	4月	4月 「橋本行革」への大きな疑問符
9月	—小淵内閣への期待と懸念 —社会保障制度を北欧に学ぶ —「22世紀」を見据えたスウェ ーデン	寺島実郎	5月	5月 「橋本行革」への大きな疑問符
10月	—米国は「日本復活」を期待して いる	岡野加穂留	6月	6月 「橋本行革」への大きな疑問符
11月	—「日米関係のカギ握る経済政策 —改革と再建への緊急処方箋 —今そこにあるニーズを探れ!	佐々木毅	7月	7月 「橋本行革」への大きな疑問符
12月	—「初心を忘れた日本企業と 「勝ち組の法則」	佐々木研治	8月	8月 「橋本行革」への大きな疑問符
1996年1月	—外交は内政である	橋爪大三郎	9月	9月 「橋本行革」への大きな疑問符
2月	—「外相・外務官僚・世論への懸 念と期待	中村桂子	10月	10月 「橋本行革」への大きな疑問符
3月	—「遺伝子組み換え食品」の光と影 —再考	中村桂子	11月	11月 「橋本行革」への大きな疑問符
4月	—21世紀の日本の戦略 —新たなメイド・イン・ジャ パン	鈴木昌平	12月	12月 「橋本行革」への大きな疑問符
5月	—日本の政治 —江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	佐藤嘉恭	1月	1月 「橋本行革」への大きな疑問符
6月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	佐藤嘉恭	2月	2月 「橋本行革」への大きな疑問符
7月	—税は「この国のかたち」	佐藤嘉恭	3月	3月 「橋本行革」への大きな疑問符
8月	—グローバリゼーションへの挑戦 —記者たちが読む「自公連立」 —行方不明の行方	佐藤嘉恭	4月	4月 「橋本行革」への大きな疑問符
9月	—21世紀の米・中・日関係への 視点	佐藤嘉恭	5月	5月 「橋本行革」への大きな疑問符
10月	—江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	佐藤嘉恭	6月	6月 「橋本行革」への大きな疑問符
11月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	佐藤嘉恭	7月	7月 「橋本行革」への大きな疑問符
12月	—税は「この国のかたち」	佐藤嘉恭	8月	8月 「橋本行革」への大きな疑問符
1997年1月	—外交は内政である	塩崎邦彦	9月	9月 「橋本行革」への大きな疑問符
2月	—「外相・外務官僚・世論への懸 念と期待	塩崎邦彦	10月	10月 「橋本行革」への大きな疑問符
3月	—「遺伝子組み換え食品」の光と影 —再考	塩崎邦彦	11月	11月 「橋本行革」への大きな疑問符
4月	—21世紀の日本の戦略 —新たなメイド・イン・ジャ パン	塩崎邦彦	12月	12月 「橋本行革」への大きな疑問符
5月	—日本の政治 —江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	塩崎邦彦	1月	1月 「橋本行革」への大きな疑問符
6月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	塩崎邦彦	2月	2月 「橋本行革」への大きな疑問符
7月	—税は「この国のかたち」	塩崎邦彦	3月	3月 「橋本行革」への大きな疑問符
8月	—グローバリゼーションへの挑戦 —記者たちが読む「自公連立」 —行方不明の行方	塩崎邦彦	4月	4月 「橋本行革」への大きな疑問符
9月	—21世紀の米・中・日関係への 視点	塩崎邦彦	5月	5月 「橋本行革」への大きな疑問符
10月	—江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	塩崎邦彦	6月	6月 「橋本行革」への大きな疑問符
11月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	塩崎邦彦	7月	7月 「橋本行革」への大きな疑問符
12月	—税は「この国のかたち」	塩崎邦彦	8月	8月 「橋本行革」への大きな疑問符
1998年1月	—外交は内政である	橋爪大三郎	9月	9月 「橋本行革」への大きな疑問符
2月	—「外相・外務官僚・世論への懸 念と期待	中村桂子	10月	10月 「橋本行革」への大きな疑問符
3月	—「遺伝子組み換え食品」の光と影 —再考	中村桂子	11月	11月 「橋本行革」への大きな疑問符
4月	—21世紀の日本の戦略 —新たなメイド・イン・ジャ パン	橋爪大三郎	12月	12月 「橋本行革」への大きな疑問符
5月	—日本の政治 —江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	中村桂子	1月	1月 「橋本行革」への大きな疑問符
6月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	橋爪大三郎	2月	2月 「橋本行革」への大きな疑問符
7月	—税は「この国のかたち」	橋爪大三郎	3月	3月 「橋本行革」への大きな疑問符
8月	—グローバリゼーションへの挑戦 —記者たちが読む「自公連立」 —行方不明の行方	橋爪大三郎	4月	4月 「橋本行革」への大きな疑問符
9月	—21世紀の米・中・日関係への 視点	橋爪大三郎	5月	5月 「橋本行革」への大きな疑問符
10月	—江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	橋爪大三郎	6月	6月 「橋本行革」への大きな疑問符
11月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	橋爪大三郎	7月	7月 「橋本行革」への大きな疑問符
12月	—税は「この国のかたち」	橋爪大三郎	8月	8月 「橋本行革」への大きな疑問符
1999年1月	—外交は内政である	塩崎邦彦	9月	9月 「橋本行革」への大きな疑問符
2月	—「外相・外務官僚・世論への懸 念と期待	塩崎邦彦	10月	10月 「橋本行革」への大きな疑問符
3月	—「遺伝子組み換え食品」の光と影 —再考	塩崎邦彦	11月	11月 「橋本行革」への大きな疑問符
4月	—21世紀の日本の戦略 —新たなメイド・イン・ジャ パン	塩崎邦彦	12月	12月 「橋本行革」への大きな疑問符
5月	—日本の政治 —江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	塩崎邦彦	1月	1月 「橋本行革」への大きな疑問符
6月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	塩崎邦彦	2月	2月 「橋本行革」への大きな疑問符
7月	—税は「この国のかたち」	塩崎邦彦	3月	3月 「橋本行革」への大きな疑問符
8月	—グローバリゼーションへの挑戦 —記者たちが読む「自公連立」 —行方不明の行方	塩崎邦彦	4月	4月 「橋本行革」への大きな疑問符
9月	—21世紀の米・中・日関係への 視点	塩崎邦彦	5月	5月 「橋本行革」への大きな疑問符
10月	—江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	塩崎邦彦	6月	6月 「橋本行革」への大きな疑問符
11月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	塩崎邦彦	7月	7月 「橋本行革」への大きな疑問符
12月	—税は「この国のかたち」	塩崎邦彦	8月	8月 「橋本行革」への大きな疑問符
2000年1月	—外交は内政である	橋爪大三郎	9月	9月 「橋本行革」への大きな疑問符
2月	—「外相・外務官僚・世論への懸 念と期待	中村桂子	10月	10月 「橋本行革」への大きな疑問符
3月	—「遺伝子組み換え食品」の光と影 —再考	中村桂子	11月	11月 「橋本行革」への大きな疑問符
4月	—21世紀の日本の戦略 —新たなメイド・イン・ジャ パン	橋爪大三郎	12月	12月 「橋本行革」への大きな疑問符
5月	—日本の政治 —江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	中村桂子	1月	1月 「橋本行革」への大きな疑問符
6月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	橋爪大三郎	2月	2月 「橋本行革」への大きな疑問符
7月	—税は「この国のかたち」	橋爪大三郎	3月	3月 「橋本行革」への大きな疑問符
8月	—グローバリゼーションへの挑戦 —記者たちが読む「自公連立」 —行方不明の行方	橋爪大三郎	4月	4月 「橋本行革」への大きな疑問符
9月	—21世紀の米・中・日関係への 視点	橋爪大三郎	5月	5月 「橋本行革」への大きな疑問符
10月	—江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	橋爪大三郎	6月	6月 「橋本行革」への大きな疑問符
11月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	橋爪大三郎	7月	7月 「橋本行革」への大きな疑問符
12月	—税は「この国のかたち」	橋爪大三郎	8月	8月 「橋本行革」への大きな疑問符
2001年1月	—外交は内政である	橋爪大三郎	9月	9月 「橋本行革」への大きな疑問符
2月	—「外相・外務官僚・世論への懸 念と期待	中村桂子	10月	10月 「橋本行革」への大きな疑問符
3月	—「遺伝子組み換え食品」の光と影 —再考	中村桂子	11月	11月 「橋本行革」への大きな疑問符
4月	—21世紀の日本の戦略 —新たなメイド・イン・ジャ パン	橋爪大三郎	12月	12月 「橋本行革」への大きな疑問符
5月	—日本の政治 —江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	中村桂子	1月	1月 「橋本行革」への大きな疑問符
6月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	橋爪大三郎	2月	2月 「橋本行革」への大きな疑問符
7月	—税は「この国のかたち」	橋爪大三郎	3月	3月 「橋本行革」への大きな疑問符
8月	—グローバリゼーションへの挑戦 —記者たちが読む「自公連立」 —行方不明の行方	橋爪大三郎	4月	4月 「橋本行革」への大きな疑問符
9月	—21世紀の米・中・日関係への 視点	橋爪大三郎	5月	5月 「橋本行革」への大きな疑問符
10月	—江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	橋爪大三郎	6月	6月 「橋本行革」への大きな疑問符
11月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	橋爪大三郎	7月	7月 「橋本行革」への大きな疑問符
12月	—税は「この国のかたち」	橋爪大三郎	8月	8月 「橋本行革」への大きな疑問符
2002年1月	—外交は内政である	橋爪大三郎	9月	9月 「橋本行革」への大きな疑問符
2月	—「外相・外務官僚・世論への懸 念と期待	中村桂子	10月	10月 「橋本行革」への大きな疑問符
3月	—「遺伝子組み換え食品」の光と影 —再考	中村桂子	11月	11月 「橋本行革」への大きな疑問符
4月	—21世紀の日本の戦略 —新たなメイド・イン・ジャ パン	橋爪大三郎	12月	12月 「橋本行革」への大きな疑問符
5月	—日本の政治 —江戸に学ぶ「経済再建プラン」 —グローバル時代の日本型経営 —50年	中村桂子	1月	1月 「橋本行革」への大きな疑問符
6月	—権力闘争はエリツィンの 強壯剤?	橋爪大三郎	2月	2月 「橋本行革」への大きな疑問符
7月	—税は「この国のかたち」	橋爪大三郎	3月	3月 「橋本行革」への大きな疑問符
8月	—グローバリゼーションへの挑戦 —記者たちが読む「自公連立」 —行方不明の行方	橋爪大三郎	4月	4月 「橋本行革」への大きな疑問符
9月	—21世紀の米・中・日関係への 視点	橋爪大三郎	5月	5月 「橋本行革」への大きな疑問符
10月	—江戸に学			

2011年6月	「非常時」の経済学
7月	トランプの復興議論に冷感さを転換点を迎えた米国の中東政策
8月	北朝鮮経済の深層
9月	サイバー戦争と日本の危機管理
10月	主権を封印した日本外交
11月	「ロシアのねらいと東アジア情勢」基軸通貨はなくなる?
12月	米国後の世界のリーダーシップ
2012年1月	宇宙政策は国家の「名刺」
2月	北朝鮮、真の実力者は誰か?
3月	アラブに「春」は来たのか?
4月	悲観論とたたかう
5月	日本経済復活の道
6月	中国の失われた十年
7月	悲観論とたたかう
8月	日本経済復活の道
9月	悲観論とたたかう
10月	中国の失われた十年
11月	「ロシアのねらいと東アジア情勢」基軸通貨はなくなる?
12月	米国後の世界のリーダーシップ
2013年1月	東アジアの国際秩序
2月	独裁国家の仕組み
3月	アメリカと中国のはざまで
4月	アーヴィングの戦略
5月	トランプ政権と米中関係
6月	少子高齢化社会の医療のあり方
7月	中国の宇宙開発に見る
8月	新たなグレートゲーム
9月	エネルギー・ゲームチエンジ
10月	インフラ老朽化問題から構想する新しい暮らし方
11月	日本の漁業復活への道
12月	聖書はどのように書かれたか
2014年1月	ヒトは日本列島にどうやって来たか
2月	北朝鮮、真の実力者は誰か?
3月	アラブに「春」は来たのか?
4月	悲観論とたたかう
5月	日本経済復活の道
6月	中国の失われた十年
7月	悲観論とたたかう
8月	日本経済復活の道
9月	悲観論とたたかう
10月	中国の失われた十年
11月	「ロシアのねらいと東アジア情勢」基軸通貨はなくなる?
12月	米国後の世界のリーダーシップ
2015年1月	田中浩一郎
2月	人類七〇〇万年の道のり
3月	欧州「新右翼政党」の研究
4月	「アラブの春」で何が変わったか
5月	経済思想は循環する
6月	見えてきた金正恩政権
7月	中国国民党の眞実
8月	「アラブの春」で何が変わったか
9月	見えなくなつた国際秩序
10月	街並みの論理
11月	マルチの海を泳ぐ欧洲人
12月	なぜボイドヤーにバッハが積まれてゐるのか?
2016年1月	ヒトは日本列島にどうやって来たか
2月	北朝鮮、真の実力者は誰か?
3月	アラブに「春」は来たのか?
4月	悲観論とたたかう
5月	日本経済復活の道
6月	中国の失われた十年
7月	悲観論とたたかう
8月	日本経済復活の道
9月	悲観論とたたかう
10月	中国の失われた十年
11月	「ロシアのねらいと東アジア情勢」基軸通貨はなくなる?
12月	米国後の世界のリーダーシップ
2017年1月	ヒトは日本列島にどうやって来たか
2月	北朝鮮、真の実力者は誰か?
3月	アラブに「春」は来たのか?
4月	悲観論とたたかう
5月	日本経済復活の道
6月	中国の失われた十年
7月	悲観論とたたかう
8月	日本経済復活の道
9月	悲観論とたたかう
10月	中国の失われた十年
11月	「ロシアのねらいと東アジア情勢」基軸通貨はなくなる?
12月	米国後の世界のリーダーシップ
2018年1月	ヒトは日本列島にどうやって来たか
2月	北朝鮮、真の実力者は誰か?
3月	アラブに「春」は来たのか?
4月	悲観論とたたかう
5月	日本経済復活の道
6月	中国の失われた十年
7月	悲観論とたたかう
8月	日本経済復活の道
9月	悲観論とたたかう
10月	中国の失われた十年
11月	「ロシアのねらいと東アジア情勢」基軸通貨はなくなる?
12月	米国後の世界のリーダーシップ
2019年1月	ヒトは日本列島にどうやって来たか
2月	北朝鮮、真の実力者は誰か?
3月	アラブに「春」は来たのか?
4月	悲観論とたたかう
5月	日本経済復活の道
6月	中国の失われた十年
7月	悲観論とたたかう
8月	日本経済復活の道
9月	悲観論とたたかう
10月	中国の失われた十年
11月	「ロシアのねらいと東アジア情勢」基軸通貨はなくなる?
12月	米国後の世界のリーダーシップ
2020年1月	ヒトは日本列島にどうやって来たか
2月	北朝鮮、真の実力者は誰か?
3月	アラブに「春」は来たのか?
4月	悲観論とたたかう
5月	日本経済復活の道
6月	中国の失われた十年
7月	悲観論とたたかう
8月	日本経済復活の道
9月	悲観論とたたかう
10月	中国の失われた十年
11月	「ロシアのねらいと東アジア情勢」基軸通貨はなくなる?
12月	米国後の世界のリーダーシップ
2021年1月	ヒトは日本列島にどうやって来たか
2月	北朝鮮、真の実力者は誰か?
3月	アラブに「春」は来たのか?
4月	悲観論とたたかう
5月	日本経済復活の道
6月	中国の失われた十年
7月	悲観論とたたかう
8月	日本経済復活の道
9月	悲観論とたたかう
10月	中国の失われた十年
11月	「ロシアのねらいと東アジア情勢」基軸通貨はなくなる?
12月	米国後の世界のリーダーシップ

対話	2023年1月	9月	2021年8月
	2023年1月	9月	日本の農地土壤を考える
	11月	11月	カルボンニュートラル論争 何がエネルギー政策の潮流を つくるのか？
	12月	12月	G A F A 時代のメディアとジャーナリズムの現在地點
	1月	1月	抑止力とは何か？
	2月	2月	日本が直面する安全保障環境 「再イデオロギー化」する日本 政治
	3月	3月	死から考える私たちの未来 好奇心を失いつつある日本人 次の超大国インドから見る世 界の秩序
	4月	4月	「レームダック化」不可避のバ デン政権と日本の役割 ①「ブーチンの戦争」が揺らし 世界の秩序
	5月	5月	②人との結びつきはどうあるべき —日本社会を緩めるヒント ジエネラリスト・北陸・エネ ギー安保
	6月	6月	日本が活力を取り戻すための 持たざる国の戦略—日本のエ ルギー政策100年を辿る
	7月	7月	ウクライナ戦争の戦況収集 から考える「情報」の本質
	8月	8月	降りられる社会・降りられない 社会
	9月	9月	—今の日本を生きる個人の変化 今が最大で最後のチャンス 覚悟を決めた日本の半導体戦 安倍政治の外交・安全保障を ふり返る
	10月	10月	—7年8ヶ月の歴史的意義 コロナ禍で考える飲酒とコミ ニケーション エルサレムで振り返る2022 年の世界 日本人と時間

安岡
松永
穴山
大場
山形
林
本間
高見澤將林
村野
古賀
境家
小林
茂木健一郎
伊藤
榎本
田中洋二郎
中林美恵子
渡部
榎谷
細谷
雄二
奈良聰智
小泉
松沢
小川さやか
滝波
吉崎
恒雄
鈴木
鉢
裕作
一人
宏文
達彦
勉
昇
英德
杉雄
清水唯一
富永
京子
十市
岩瀬
渡邊
高橋
西川
黒田
小野寺五典
高見澤將林
奈良岡聰智
谷口
岩間
池内
飯田
并上
糸谷
和見
忠弘
泰之
毅
陽子
恵
功一
哲郎

2月	若き開拓者たちが考える新たな価値を創造するための「コミュニティ」
3月	「ウクライナ侵攻から1年」 「ブチヤの惨劇」から考える安全保障の本質
4月	植田日銀に課せられた大きな選択
5月	食とワインと音楽の愉しみ —パリでの暮らしが気付いたこと
6月	地球の歴史の見つめ方
7月	京都で考える教養、ユーモア、 地靈、そして友情とは? 「選挙」を中心に考える
8月	権威主義と民主主義のゆくえ
9月	台湾の現在地
10月	韓国の核保有論から考える抑止 のあり方
11月	①繰り返されるハマス・イスラエル衝突 報復の連鎖に潜むパレスチナ問題 ②京都で過ごした氷河期世代
12月	ヨーロッパの東と西、大国と小国 自民党的構造と政党政治のゆくえ 政治改革で見落とされた論点とは? 新時代を迎えるエネルギー環境 何が勝者と敗者を分かつのか? 3月「選挙イヤー」と二つの戦争 民主主義の選択は世界をどこに導くのか? 「制裁」から見た世界 なぜロシアの攻勢は衰えないのか? デモクラシーの起源から考える
1月	時代を超えて考える女性と法 ガザ戦争と中東 アメリカ・イスラエルの「特別な 関係」とバレスチナの将来
2月	心の病の過去と今 三淵嘉子と「虎に翼」 人類学・脳科学から考える
3月	時代を超えて考える女性と法 ガザ戦争と中東 アメリカ・イスラエルの「特別な 関係」とバレスチナの将来

9月	岐路に立つ政党政治 ——日・ラテンアメリカの比較で見る 政治が動く瞬間にについて
10月	トランプと陰謀論政治 ——分断のアメリカ、その先を見据えて
11月	「おひとりさま」時代の保証人制度
12月	「シルバー民主主義脱却」の 糸口を探る
2025年1月	「二つの戦争」と 日本のエネルギー安全保障
2月	花巻から考える 地方の現実、希望と課題
3月	京都の上（かみ）と下（しも）
4月	ロシア・ウクライナ戦争が問う 世界の選択
5月	移民・難民問題を 一から議論するために
6月	停戦のゆくえと揺れる米欧 トランプ2.0と気候変動
7月	止まる政策、進む技術 「就職氷河期世代」問題の 本質とは何か？
8月	オールドメディアの現状と ジャーナリズムの行方
9月	この国は子育てに向いているのか
10月	ドイツ・オランダに見る 右翼ボビュリズム政党が 躍進する社会の背景
11月	政党政治の開拓者 原敬に学ぶ 高市政権の行方を探る
12月	政治制度は民意に応えるべきなのか？